令和７年度第１回岩手県環境保全型農業直接支払制度推進員会　議事録

（開催日時）令和８年２月３日（火）午後２時 15 分～午後４時 00 分
（開催場所）岩手県公会堂　11 号室
（出 席 者）委員：新田義修委員、大平恭子委員、兼平宗彦委員、畠山武志委員、渡邉里沙委員
事務局（農業普及技術課）：鈴木茂寿総括課長、阿部主任主査、
佐々木主任主査、照井技師

１　開会

２　挨拶

鈴木農業普及技術課総括課長があいさつを述べた。
続いて事務局より委員の紹介を行った。

３　環境保全型農業直接支払交付金について

事務局から、環境保全型農業直接支払交付金の概要について説明。

【質問・意見等】

○　**新田委員長**

前年と比べて、予算規模はどうなったか。

○　**事務局**

令和７年度から制度の見直しがあったこともあり、前年度より大きめの予算規模。本県も要望額に対して満額の配分となっている。

○　**新田委員長**

全国共通取組として炭の投入が加わっており、岩手県も炭の産地であるが、将来的に取り組みやすい要素になりそうか。

○　**事務局**

今年度、本県で取組はなく、実施しているのは全国でもおそらく４都道府県くらいで広がりまだまだ。Ｊクレジットのメニューの中でもバイオ炭があるので、県でもＰＲしていきたい。

○　**新田委員長**

Ｊクレジットに関わる取組は、林業という視点でやっているところが多いと思うがその考え方はどうか。

○　**事務局**

御指摘の取組は、Ｊ－ＶＥＲのことと思うがそれとは違う仕組みで、木が吸収したCO_2を土壌に固定させるという取り組み。県では炭の取組に関する実装事業を実施しており、普及にあたってはコストなども含めて検討していきたい。

○　**大平委員**

有機農業について、使用して良い農薬や肥料があるように記載があるが、どのような考え方なのか教えてほしい。

○　**事務局**

化学的な処理を加えていない天然由来のものなどで、例外的に使用可能な資材がリスト化されている。

○　**大平委員**

一般生活者に伝える時には、化学肥料・化学合成農薬は使っていないが、天然由来のものは使えると話せばよいか。

○　**事務局**

そのとおり。

○　**新田委員長**

総合防除が全国共通取組となったが、天候が変化している状況でこの手法で対応できると考えるか。

○　**事務局**

本県は、総合防除の取組自体は増えている。抵抗性品種や効果的な防除時期など手法を組み合わせながら進めていくことになると考える。

４　議　　事

(1)　令和７年度環境保全型農業直接支払交付金の実施状況について

【質問・意見等】

○　**新田委員長**

本取組は水田のケースが多いかと思うが、雑草や病害虫が増えているという課題は水田でも同様の傾向がみられるという理解でよいか。

○　**事務局**

野菜や果樹で多い課題であり、水稲でもカメムシの話なども聞くが、技術で対策している。

○　**新田委員長**

資料では作目が分からないが、データでは把握しているのか。転作田かなども分かるのか。

○　**事務局**

作目までは把握可能である。

○　**新田委員長**

取組面積が減っているのは分かったが、個人農家が減っているのか集落組織等の取組が減っているのかどちらか。

○　**事務局**

県南地域で減少が大きかったが、組織としての取組が減っている。

○　**新田委員長**

堆肥の施用に取り組む面積が減っているとのことだが、畜産側からの供給が減っているのか、取組者がうまく探せていないのか。

○　**事務局**

和牛の飼育頭数が減ってきている傾向があるため、その影響もあるかと思われる。

○　**大平委員**

先進事例の講演以外にも環境保全型農業を進めるための仕組みはあるか。

○　**事務局**

国の交付金を活用して、各地域で栽培実証に取り組んでいる。マニュアルを作成して農業者に配ることにしている。

○　**大平委員**

栽培実証は、地域ごとの実状に合わせているのか、品目ごとに取り組んでいるのか。

○　**事務局**

各地域の主要な品目などに取り組んでいる。

○　**大平委員**

例えばどのような実証を行っているか。

○　**事務局**

施設園芸で防虫ネットを使用することによる化学農薬の使用低減や、水稲における堆肥活用による減肥に関する実証を行っている。

○　**渡邉委員**

盛岡市の堆肥の施用の取組が増えているのはなぜか。

○　**事務局**

新規の取組者が増えている。

○　**渡邉委員**

なぜ増えているのかを追求するのが大事だと思う。また、減少分についても理由を突き詰めて今後に活かしていくことが必要だと考える。あわせて、アンケート結果で「今後取り組みたい」と回答した農業者に対して支援することが重要である。

○　**渡邉委員**

課題の中で、事務に関する部分があがっているが、このハードルを下げる必要があると思う。消費者の認知度向上に関する対応方向について、セミナー以外にもスーパーへのアプローチなどの取組をしていくべきだと考える。

○　**大平委員**

消費者の立場からすると求めているのは、美味しい・近隣で作っている・新鮮・安全というくらいかと思うが、資料にある「環境にやさしい農業の取組が消費者に広く理解されていない」というのは、消費者になにを求めているのか。

○　**事務局**

農産物を生産するだけではなくて、環境にも配慮しているということやそれに対する価値を消費者に理解してほしいということである。

○　**大平委員**

結果として美味しいということがあるだけで、そのような出口から入口を知ってもらうというのも手かと思う。生産現場を見てもらったり二次元コードで紹介したりというのも良いと思う。

○　**渡邉委員**

生産側だけでなく、販売する側と一緒にやらないといけないと思う。

○　**事務局**

頻度や場面などで効果が変わってくると思うので、協調しながらやっていくことが求められているのだと思う。取組の透明化については、農水省で「みえるらべる」など客観的に可視化できるものもあり、県でも取組の周知を図っている。

○　**大平委員**

ＳＮＳのストーリー動画など簡単なものでもいいかと思う。

○　**兼平委員**

申請している年齢構成は分かるのか。

○　**事務局**

個々の年齢は把握していない。

○　**兼平委員**

環境保全型農業に取り組む組織の状態を把握する意味でも、年齢を把握するなどの考え方があっても良いと思う。また、他の農産物とは違うということを過程も含めて見てもらうなど、それぞれの取組をリンクして考えていくべき。

○　**大平委員**

小規模農業者とオーガニックも深い関係があると考えている。マルシェなど行くと、頑張っていて固定のファンがいている農業者もいるので、そのあたりも考えられるとよい。

○　**畠山委員**

果樹について、江刺は交信攪乱剤を早い時期から導入していた。別の視点からみると、わい化樹も早く導入されており、わい化樹は根域が狭いと言われている。このようなことについて、それぞれ単体ではなく色々な視点をもって考えないといけないと思う。

生産量が減って、結果的に販売価格が高くなっているというのもある。

○　**事務局**

交付金の話に直接する話ではないが、高温だけでなく大雨などの気象条件にも対応できるように台木の切り替えなどを進めていく予定。ハダニは、天敵の有効活用する手法を検討している。

○　**新田委員長**

交付金に関係する取組は通常の農業ではないので、防除マニュアルを細かく作らない難しいと思う。また、消費者については個々へのアプローチではなく生協などに売り込みをした方がいいのではないか。

・令和７年度環境保全型農業直接支払交付金の実施状況について、了承された。

(2)　令和８年度環境保全型農業直接支払交付金について

○　**新田委員長**

計画書の作成を紙からオンラインにするというのが売りかと思うが、申請する農家からするとやりづらくなる可能性があるので、生成ＡＩの活用なども含めて行政が支援することを今から検討しておいた方がいいと思う。

○　**事務局**

オンラインがやりづらいという農家はいると思う。御指摘のとおりＡＩの活用なども選択肢に入れながら支援を検討したいと思う。

○　**新田委員長**

オンラインで完結できる仕組みも準備してもらえたらと思う。

○　**渡邉委員**

６月末の申請が当該年の最大量であると思うので、そこまでの働きかけを頑張ってほしい。

○　**大平委員**

作物の制限はあるのか。

○　**事務局**

特にない。

○　**畠山委員**

みどり認定の申請は、県ＨＰなどを見ればできるようになっているのか。入力するものなどがあればやりやすいと思うが。

○　**事務局**

振興局が窓口になっているので、そこに相談してほしい。個人でも申請できるような仕組みは検討しており、令和９年度は交付金で要件になることもあり、来年度は申請者が増えることが想定されるので、各地域で説明会を実施する予定。

・令和８年度環境保全型農業直接支払交付金について、了承された。

(3)　その他

○　**事務局**

本年度の開催は、今回で以上。来年度の開催についてもよろしくお願いしたい。

・環境保全型農業直接支払交付金の令和７年度実施状況等にかかる諮問に対する答申は、本日の意見をもとに、新田委員長に作成を一任することを委員会に諮り、了承された。